

## ■正誤問題 (過去に出題された選択肢) 64問

○×で回答して下さい。

線で結ばれているものは、素地と塗装の組み合わせが適切かどうかを判断して下さい。

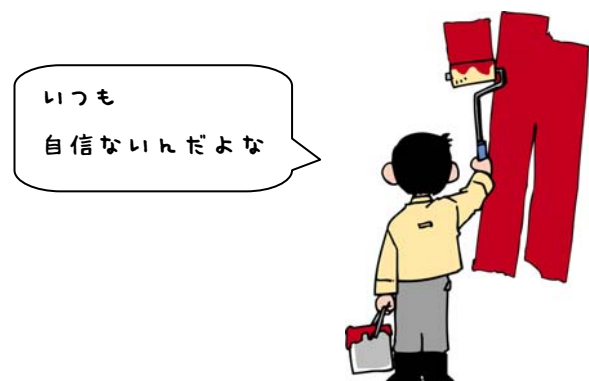
答えが×になった場合は、どこが間違っているのかも考えてみましょう。

1. 木部を透明塗装する際の素地調整については、汚れ・付着物を除去した後、研磨を行った。
2. 屋内のせっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。
3. 冬期における屋内のコンクリート面への塗装に当たって、素地調整後の乾燥期間の目安を、14日間とした。
4. 屋内のコンクリート面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。
5. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地面に対して直角に保ち、1回ごとの吹付け幅の約1/3を重ねながら吹き付けた。
6. モルタル面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。
7. 屋内の木部は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
8. 屋内のコンクリート面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。
9. 屋内の亜鉛めっき鋼面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
10. 夏期における屋内のコンクリート面への塗装において、素地調整後のコンクリート面の乾燥期間を、7日間とした。
11. モルタル面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
12. 鋼板面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
13. 鋼板面の素地ごしらえにおいて、溶剤洗浄により機械油を除去した。
14. 木部は、ウレタン樹脂ワニス塗りとした。
15. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。

16. コンクリート …………… アクリル樹脂エナメル
17. せっこうボード …………… 合成樹脂エマルジョン模様塗料
18. モルタル …………… 塩化ビニル樹脂エナメル
19. 鉄部 …………… 合成樹脂エマルジョンペイント
20. 木部 …………… オイルステイン
21. 合成樹脂エマルジョンペイントを、コンクリート面に塗装した。
22. 夏期において、塩化ゴム系エナメルは、中塗り後 24 時間放置して、上塗りした。
23. 速乾性のクリヤーラッカーは、湿度の低いときに塗装した。
24. 夏期において、コンクリート打込み後 14 日間放置したうえで、その表面に多彩模様塗料を塗装した。
25. 塩化ビニル樹脂エナメルを、モルタル面に塗装した。
26. フタル酸樹脂エナメルを、木部に塗装した。
27. マスチック塗材を、モルタル面に塗装した。
28. 亜鉛めっき面の現場塗装に先立つ素地ごしらえとして、汚れや油類を除去した後に、エッチングプライマー塗りを行った。
29. 合成樹脂エマルジョンペイントを、鋼板面に塗装した。
30. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たり、素地の乾燥期間の目安は、21 日とした。
31. 亜鉛めっき鋼板面に、合成樹脂調合ペイントを塗装した。
32. 木部に、油性ステインを塗装した。
33. 木部の素地ごしらえにおいて、節止めとして、節及びその周辺にセラックニス を 2 回はけ塗りした。
34. 鋼板面に、フタル酸樹脂エナメルを塗装した。

35. 鋼板面の素地ごしらえにおいて、油類の除去をサンドブラスト法により行った。
36. モルタル面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
37. 亜鉛めっき鋼板面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
38. 木部は、油性ステイン塗りとした。
39. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たり、素地の乾燥期間の目安は、21日とした。
40. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。
41. 亜鉛めっき鋼板 ————— 合成樹脂調合ペイント
42. 鋼板 ————— 塩化ゴム形エナメル
43. 一般木部 ————— マスチック塗材
44. コンクリート ————— 合成樹脂エマルジョンペイント
45. フローリング ————— ウレタン樹脂ワニス
46. 塗装場所の気温が10℃、湿度が80%で、換気も適切であったので、そのまま塗装を行った。
47. 亜鉛めっき鋼面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
48. モルタル面は、塩化ビニル樹脂エナメル塗りとした。
49. 木部は、アクリル樹脂エナメル塗りとした。
50. 鉄鋼面の素地ごしらえにおいて、溶剤ぶきにより油類を除去した。
51. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地面に対して直角に保ち、1回ごとの吹付け幅が重ならないように吹き付けた。
52. コンクリート壁面へのマスチック塗材塗りに当たって、気温が5℃を下回ったので、塗装作業に着手しなかった。
53. 内壁における塗料の塗り重ねにおいて、各層ごとに塗料の色を変えた。

54. 室内の木部は、オイルステイン塗りとした。
55. 外壁のモルタル面は、アクリル樹脂エナメル塗りとした。
56. コンクリート ————— マスチック塗材
57. 一般木部 ————— オイルステイン
58. ALC パネル ————— ウレタン樹脂ワニス
59. 亜鉛めっき鋼板 ————— フタル酸樹脂エナメル
60. モルタル ————— 塩化ビニル樹脂エナメル
61. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たって、素地の乾燥期間の目安を 3 週間とした。
62. シーリング面の塗装仕上げにおいて、シーリング材の乾燥を防止するために、シーリング材を充填した後、直ちに塗装を行った。
63. 手摺等の木部は、ウレタン樹脂ワニス塗りとした。
64. せっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。



## ■正誤問題 解答編

1. 木部を透明塗装する際の素地調整については、汚れ・付着物を除去した後、研磨を行った。  
1. ○
2. 屋内のせっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。  
2. ○
3. 冬期における屋内のコンクリート面への塗装に当たって、素地調整後の乾燥期間の目安を、14日間とした。  
3. × **コンクリート面の塗装において、素地の乾燥期間の目安は、夏期 21 日以上、春秋期 21～28 日、冬期 28 日以上です。したがって、不適當。**
4. 屋内のコンクリート面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。  
4. ○
5. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地面に対して直角に保ち、1 回ごとの吹付け幅の約 1/3 を重ねながら吹き付けた。  
5. ○
6. モルタル面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。  
6. ○
7. 屋内の木部は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。  
7. ○
8. 屋内のコンクリート面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。  
8. ○
9. 屋内の亜鉛めっき鋼面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。  
9. ○
10. 夏期における屋内のコンクリート面への塗装において、素地調整後のコンクリート面の乾燥期間を、7日間とした。  
10. × **コンクリートにおける素地の乾燥期間の目安は、夏期 21 日以上、春・秋期 21～28 日以上、冬期 28 日以上です。従って、不適當。**

11. モルタル面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。

11. × 合成樹脂調合ペイントは、塗膜の耐アルカリ性が劣るため、コンクリート、モルタル、ボード類等の素地には適していません。木部や鉄鋼面に適しています。

12. 鋼板面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。

12. ○

13. 鋼板面の素地ごしらえにおいて、溶剤洗浄により機械油を除去した。

13. ○

14. 木部は、ウレタン樹脂ワニス塗りとした。

14. ○

15. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。

15. ○

16. コンクリート …………… アクリル樹脂エナメル

16. ○

17. せっこうボード …………… 合成樹脂エマルジョン模様塗料

17. ○

18. モルタル …………… 塩化ビニル樹脂エナメル

18. ○

19. 鉄部 …………… 合成樹脂エマルジョンペイント

19. × 合成樹脂エマルジョンペイントは、コンクリート、モルタル、プaster、せっこうボード等の面に適しています。金属面には使用できません。

20. 木部 …………… オイルステイン

20. ○

21. 合成樹脂エマルジョンペイントを、コンクリート面に塗装した。

21. ○

22. 夏期において、塩化ゴム系エナメルは、中塗り後 24 時間放置して、上塗りした。

22. ○

23. 速乾性のクリヤーラッカーは、湿度の低いときに塗装した。

23. ○

24. 夏期において、コンクリート打込み後 14 日間放置したうえで、その表面に多彩模様塗料を塗装した。  
**24. × コンクリート打ち込み後の乾燥期間は、夏季で3週間以上、冬季で4週間以上とします。**
25. 塩化ビニル樹脂エナメルを、モルタル面に塗装した。  
**25. ○**
26. フタル酸樹脂エナメルを、木部に塗装した。  
**26. ○**
27. マスチック塗材を、モルタル面に塗装した。  
**27. ○**
28. 亜鉛めっき面の現場塗装に先立つ素地ごしらえとして、汚れや油類を除去した後に、エッチングプライマー塗りを行った。  
**28. ○**
29. 合成樹脂エマルジョンペイントを、鋼板面に塗装した。  
**29. × 合成樹脂エマルジョンペイントは、耐アルカリ性が高いため、コンクリートやモルタル面には適していますが、耐酸性が低いため、金属面には適していません。**
30. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たり、素地の乾燥期間の目安は、21 日とした。  
**30. ○**
31. 亜鉛めっき鋼板面に、合成樹脂調合ペイントを塗装した。  
**31. ○**
32. 木部に、油性ステインを塗装した。  
**32. ○**
33. 木部の素地ごしらえにおいて、節止めとして、節及びその周辺にセラックニス を 2 回はけ塗りした。  
**33. ○**
34. 鋼板面に、フタル酸樹脂エナメルを塗装した。  
**34. ○**
35. 鋼板面の素地ごしらえにおいて、油類の除去をサンドブラスト法により行った。  
**35. × 鉄面の素地ごしらえにおいて、油類の除去は、溶液または溶剤洗浄とします。サンドブラスト法は、鋼板面の錆の除去を目的とした工法です。**

36. モルタル面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。

36. × フタル酸樹脂エナメル塗りは屋内の木部、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面に適しています。モルタル面やコンクリート面には、耐アルカリ性が低いため適していません。

37. 亜鉛めっき鋼板面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。

37. ○

38. 木部は、油性ステイン塗りとした。

38. ○

39. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たり、素地の乾燥期間の目安は、21日とした。

39. ○

40. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。

40. ○

41. 亜鉛めっき鋼板 ————— 合成樹脂調合ペイント

41. ○

42. 鋼板 ————— 塩化ゴム形エナメル

42. ○

43. 一般木部 ————— マスチック塗材

43. × マスチック塗材は、下地がコンクリートやモルタル、又は、プラスターや ALC パネルに適しています。

44. コンクリート ————— 合成樹脂エマルジョンペイント

44. ○

45. フローリング ————— ウレタン樹脂ワニス

45. ○

46. 塗装場所の気温が 10℃、湿度が 80%で、換気も適切であったので、そのまま塗装を行った。

46. ○

47. 亜鉛めっき鋼面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。

47. ○

48. モルタル面は、塩化ビニル樹脂エナメル塗りとした。

48. ○



49. 木部は、アクリル樹脂エナメル塗りとした。

49. × アクリル樹脂エナメル塗りは、屋外のコンクリートやモルタル面に使われず。

50. 鉄鋼面の素地ごしらえにおいて、溶剤ぶきにより油類を除去した。

50. ○

51. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地面に対して直角に保ち、1 回ごとの吹付け幅が重ならないように吹き付けた。

51. × スプレーガンは、1 行ごとの吹付け幅が約 1/3 ずつ重なるように運行します。

52. コンクリート壁面へのマスチック塗材塗りに当たって、気温が 5°Cを下回ったので、塗装作業に着手しなかった。

52. ○

53. 内壁における塗料の塗り重ねにおいて、各層ごとに塗料の色を変えた。

53. ○

54. 室内の木部は、オイルステイン塗りとした。

54. ○

55. 外壁のモルタル面は、アクリル樹脂エナメル塗りとした。

55. ○

56. コンクリート ———— マスチック塗材

56. ○

57. 一般木部 ———— オイルステイン

57. ○

58. ALC パネル ———— ウレタン樹脂ワニス

58. × ALC パネル下地には、マスチック塗材塗り等が適しています。なお、ウレタン樹脂ワニス塗りは木部のみ適応しています。

59. 亜鉛めっき鋼板 ———— フタル酸樹脂エナメル

59. ○

60. モルタル ———— 塩化ビニル樹脂エナメル

60. ○

61. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たって、素地の乾燥期間の目安を3週間とした。

61. ○

62. シーリング面の塗装仕上げにおいて、シーリング材の乾燥を防止するために、シーリング材を充填した後、直ちに塗装を行った。

62. × シーリング面に塗装仕上げを行う場合は、シーリング材が硬化してから行います。シーリング材充填直後の未硬化状態での塗装は、シーリング材を損傷・汚損してしまいます。

63. 手摺等の木部は、ウレタン樹脂ワニス塗りとした。

63. ○

64. せっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。

64. ○

塗装工事は、毎年必ず  
出題されるから  
確実に1点とらないとな。

